

B-63 かぎ針編における1個の編目のたてとよこの長さの比に影響を及ぼす因子について

県立新潟女子短大 多田 千代
○小野日出子
平沢 和子

1. かぎ針を用い、「こま編」「中長編」「長編」などの基礎編を編み続けて円形や角形などの編物作品を製作する場合、各段ごとの増目の数を決定するのは、それぞれを構成している編目1個のたてとよこの長さの比である。この比の値が、基礎編の種別、編糸の種類や太さ、かぎ針の形および太さ、糸の引きあげ方の度合いなどによっていかなる影響を受けるかを検討して、編物指導上の基礎資料を得ようとした。

2. 試料用の糸は市販の純毛および混紡の並太毛糸、中細毛糸、また純綿のレース糸などであり、かぎ針には、同じく市販品の中から形と太さの異なるもの数種を選んだ。これらを用いて20cm×20cmの試料編地を作り、これを平らな台上に置き、不自然なしわや張力を除き、そのほぼ中央部分で、10cmに最も近い整数の目数と整数の段数とを数カ所選ぶ。そして、それらの長さを置尺によりmmの単位まで計って、編目1個のたてとよこの長さおよびその比を求めた。

3. この比の値は基礎編の種別ごとにほぼ一定値をとる。しかし「長編」や「三つ巻長編」のように比の値が大きな編目の場合ほど、糸のひき上げ方やその他の影響をうけて変動するので、同一効果を得るためには、増し目の数を加減しなければならない。